

知って得する防災『建物を守る備え』の話



先の熊本地震では、多くの歴史ある神社仏閣も被害を受けました。先人から大切に受け継がれてきた建物が傷つく姿に、神社建築に携わる私たちも胸を痛めました。その経験を忘れることなく、大切な建物を次の世代へつないでいくために、日頃から備えておくことの大切さを改めて考えていきたいと思えます。

◎感震ブレーカーをご存じでしょうか？

感震ブレーカーとは、大きな地震の揺れを感じすると、自動で電気を遮断する装置です。

地震では、停電した後には電気が復旧する際、倒れた電気ストープや破損した配線などに電気が流れ、「通電火災」が発生することがあります。このような火災を防ぐために開発されたのが感震ブレーカーです。震度5強程度以上の揺れを感じると、自動でブレーカーを落とし、電気による出火のリスクを減らします。

木造建築の多い神社仏閣では、一度火災が発生すると建物や文化財に大きな被害が及ぶ恐れがあります。大切な建物を守るための備

えとして、近年注目されている防災設備の一つです。

◎一枚あると心強い！

防水シートの備え。



地震や台風などによって屋根が壊れると、建物そのものが倒壊していかなくても、雨が入り込むことで木部や天井、仏具、書物などの被害がさらに広がる可能性があります。

そんなとき、応急的に雨の侵入を防ぐために役立つのが「防水シート」です。

防水シートは、屋根や窓などの破損箇所を一時的に覆うだけでなく、大切な仏具や書物を水やほこりから守ったり、濡れたものを一時的に置く場所をつくったりと、さまざまな場面で役立ちます。

ただし、地震後の建物や屋根には、瓦の落下や余震による倒壊などの危険があります。無理に屋根へ上らず、まずは身の安全を確保し、建物に大きな被害がある場合は専門家へ相談しましょう。文化庁も、文化財が被災した際には専門家と連携できる場合、相談しながら対応するよう案内しています。防水シートだけでなく、固定用のロープ、養生テープ、軍手、ヘルメットなども一緒に保管

しておくと、いざというときに慌てずに済みます。

大切な本堂や庫裡、受け継がれてきた文化財を、その後の雨から守るために。防水シートの保管場所や大きさ、枚数を、この機会に一度確認してみたいかがでしうか。

◎参拝者を守るために

今できること

災害は、参拝者がいない時に起こるとは限りません。法要や行事、初詣など、多くの人が集まる時に地震や火災が発生する可能性もあります。そのような時に慌てないためには、日頃から避難経路や危険箇所を確認しておくことが大切です。

例えば：

- ・避難口までの通路に物が置かれていないか
- ・本堂や庫裡に倒れやすい棚や家具はないか
- ・ガラスや照明器具に落下の危険はないか
- ・「何かあってから考える」のではなく、今だからこそ確認して、建物を守ることはもちろん、そこを訪れる一人ひとりの命を守ることも、神社仏閣にとって大切な備えの一つです。